



ころの中を見つめよう 博愛を広げるため

国際ロータリー第2750地区
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

2011~2012年度

会報

愛と笑いで創ろう友の和・広げよう奉仕の輪



2011.11.09. 第990回例会 No.22-18 2011.11.16発行

司会 SAA・親睦委員会 三田みよ子

点鐘 副会長 萩生田政由

ロータリーソング 「それでこそロータリー」
ソングリーダー 菊池 敏

お客様紹介 副会長 萩生田政由
社会福祉法人 島田療育センターはちおうじ
所長 小沢 浩様
(株)メディックス 専務取締役 鶴見 至男様

会務報告 副会長 萩生田政由

【 委員会報告 】

出席報告	出席奨励委員会	宮村 宏
会員総数		34名
出席義務者数		24名
出席者数	出席義務者	14名
	出席義務免除者	8名
	事前MU	1名
	計	23名
出席率	23/31 =	74.19%
第988回例会(10/26)訂正出席率 82.14%		

ニコニコBOX SAA・親睦委員会 杉山 真一
遠藤 二郎

島田療育センター小沢所長様
(株)メディックス 鶴見専務様
ようこそいらっしゃいました。
小沢先生卓話楽しみにしています。
小沢先生の卓話楽しみに出席しました。
小沢先生卓話楽しみにしております。
小沢様卓話たのしみにしております。
卓話 宜しく願います。
小沢様卓話たのしみにしてます。
穏やかな日です。小沢さん卓話
楽しみです。
本日の小沢先生の卓話を楽しみに
しております。
小沢さん卓話よろしく願い致します。
島田療育センターはちおうじの小沢
さん卓話よろしく。
富士見RCへの移動例会のおみやげ
有難うございました。

本日の合計¥12,000(累計¥323,051)

その他委員会

障がい者テニススクール実施委員会

実施委員長 大松 誠二

11月24日第9回障がい者テニススクールの参加者が現在21名になりました。尚、本日例会後実施委員会を開きますので、委員の方、出席宜しくお願いします。



第12回臨時理事会の報告を致します。
第1号議案：次年度役員候補指名の日程について11月9日を11月16日に変更いたします。
第2号議案：第1号議案の決定に伴い年次総会

の日程を12月21日に変更いたします。
第3号議案：親睦旅行の決算報告を承認しました。
第4号議案：米山梅吉記念館に関する件で1000円募金の要請が参りましたので承認致しました。
第5号議案：東日本復興支援活動について東グループでは、府中RCが中心となり各クラブ6万円程度の支援要請が有りました。詳細については後日案内がまいります。
幹事報告 幹事 荒瀧 義機

- 配布物：ロータリーの友、ガバナー月信、Watch us 2012年「ガバナーナイト」のご案内 地区より、「職業宣言」修正の通知 障がい者テニスのリーフレット
- 回覧：ポリオ撲滅チャリティーコンサートの協力依頼、2012年国際大会の参加要請 R2750地区ガバナーナイト開催のお知らせ
- 東京神宮RCより事務局移転の通知、東京米山友愛RCよりホームページ開設のお知らせが参りました。
- 11月8日、国際ロータリー第2750地区2011~2012年度多摩東グループ第4回グループ協議会に出席して参りました。

例会場 京王プラザホテル多摩 例会日 水曜日 12:30~ 月最終例会 18:30~
事務局 〒206-0033 多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL042-372-6463 FAX042-372-6491 Eメール tamagr@tamagr.join-us.jp

会長 小泉 博 幹事 荒瀧義機
会報・記録委員長 柴崎信洋 副委員長 大松誠二
委員 片山哲也 菊池 敏 宮本 誠 海野榮一 山田 勲

SAA・親睦委員会 委員長 足立潤三郎

移動例会と親睦旅行の決算報告は来週の例会に詳しい内容を報告致します。
本日例会後、2階デュエットにて12月21日のクリスマス例会について委員会を行いますので、委員の方は出席願います。

卓話者紹介 プログラム委員長 伊澤ケイ子

先生を新聞で知り斎藤会員のご協力で先生の卓話が実現出来大変嬉しく思います。では、先生のプロフィールを紹介致します。先生は静岡県で生まれ、高知大学医学部を卒業後浜松医大の小児研修医を経て、東京都立八王子小児病院に赴任され、重症心身障がい児医療の世界では大変有名な方です。平成15年より島田療育センターの創始者小林先生に多大な影響を受けて島田療育センターに赴任され、現在は島田療育はちおうじセンタ - 所長をしておられます。

**卓話 「生きる」ということ
島田療育センターはちおうじ 小沢 浩様**

八王子小児病院が無くなり、その後地に島田療育センターが出来まして、現在60名のスタッフとやっております。



私は子供たちとその親御さんを通して、生きるとはどういう事なのかを日々考えながら過ごしていますので今日は皆様に一緒に感じて頂ければと思います。

島田療育園の歴史を中心にお話したいと思います。まずはじめに障害と障がいの違いについて申しますと国や法律・医師等は漢字の「害」を用い、市町村等はひらがなの「がい」を用いる様です、私は医師として今日は漢字の「害」を使わせて頂きます。小林先生の座右の銘は「愛はすべてをおおう」です。先生は明治41年に長野で生まれました。昭和10年に慶応大学医学部を卒業しましたが在学中に結核にかかり、当時結核にかかったら殆ど助からないと言われておりましたが、静養中に次兄の影響でキリスト教に出会い聖書が心のよりどころとなり、キリスト教に傾倒して行くにつれ少しずつ体調が良く成って行くの感じ、奇跡的に1年の留年だけですみました。

その頃医者になるか、牧師になるかで大いに悩みましたが、子供の心にも大人と同じように救いを求めている事を知り小児科に進む思いを強くしたのです。小児科の先生は良くお酒を飲むのですが、小林先生は信仰上の理由から酒を拒否していたので、酒以外の事は何でもやろうと厄介な事は率先して引き受け、誰も引き受けなかった障害児の問題に関わられました。重症患者も率先して一生懸命診ることにより、助かる患者も何人かおり、周りから奇跡男と呼ばれたりもして、そこに医療の真髄を感じておられました。昭和13年に小児精神衛生相談室の

主任に成られました。今で言う障害児を診る外来の主任のことです。そして昭和15年に長男を細菌性髄膜炎で亡くし、その事により更に障害児医療に人生を捧げようと思うようになられました

昭和16年～20年まで軍医として満州・沖縄・台湾と行くのですが奇跡的に命をとりとめた事で、この命は子供たちに捧げようと決意を新たに小林先生の戦後が始まったという事です。東京の日赤産院で小児科の部長をやられたのですが、何しろその頃東京には子供がいない。銭湯で子育て相談等をしているうちに次第に捨て子の問題に関わることになります。捨て子の中でも障害児であるとか、混血の子供などを日赤産院で診る様にしておられました。周りからは捨て子は不義で生れた子なのだから助けるべきで無い等と言われる中で、この命を見捨てるのが医師として人としてあるべき姿なのかと、抵抗して収容して行かれたのです。子供たちが食べるものが無いので自ら闇市に行き食糧を買って来たりされました。ある日大阪からやって来た親子がありました。子供は結核性脳膜炎に掛かってストレプトマイシン等の治療で命は助かったのですが、寝たきりに成ってしまいました。姑からはうつるから近寄るな、と部屋の隅に押し込められ、旦那は蒸発してしまい絶望の淵にいた時、たまたま東京の渋谷でこういう子を診てくれる先生がいると教えて貰い、その一言を頼りに上京して来て区役所等に行っても全然分からず、そのうち自分が結核にかかってしまい日赤の内科に行ったところ、うちの小児科にそういう先生がいると教えられ小林先生に遇ったそうです。先生は「私が責任を持って育てますからお母様はどうぞしっかり結核を治して下さい、今は結核は治りますよ」と言われたそうです。その時の事をお母様は、あの出会いが無かったら私はもうこの世にいなかったと、感謝感謝で一杯ですと話しておられました。この子は今も多摩の島田で元気に過ごしております。

昭和2年に寿産院事件がありそれがきっかけで児童福祉法が生まれ、日赤産院は乳児院として認可され法的に守られることに成りました。このほかに避妊薬の使用が公認され、経済的な理由による妊娠中絶が認可されました。いろいろな事がある中、運命の出会いがありました。それは島田伊三郎と次男の良夫です、この出会いが後の島田療育園に繋がるのです。島田伊三郎と小林先生が療育園の土地探しに奔走し一度目は千葉で理解されず断念し、遂に多摩市で実現できたのです。多くの困難が有りながら、多くの理解者、協力者の方々の力で設立されました。この後もたくさん困難が有りながら関係者の皆様の力添えにより現在に至っております。

まだまだ沢山お話しましたが、小沢先生の執筆された「愛することからはじめよう 小林堤樹と島田療育園の歩み」をご覧いただければ、更に詳しく理解出来るのではないのでしょうか。この本の印税は全て療育園の子供たちのためにあてられるということですので、協力をしましょう。最後に島田療育センターはちおうじは「輪」を「和」でつなぐ、をモットーにしているということです。

お礼と点鐘 副会長 萩生田政由

(今週の担当： 菊池 敏)